

稚内商工会議所

# 稚内版地域戦略ビジョン

# 「かぜ」部会

～特異な気象環境を活かす～

- 出力100万kw超の風力発電事業創出を可能とする送電網建設事業への参画
- 海産物や農畜産物を原料とする食品製造事業への活用や、蓄電機器開発等関連事業への参入など、風力発電エネルギーの地産地消を促す公的支援制度の策定
- 再生可能エネルギー電力自給率100%超の、市民生活そのものを滞在型観光の戦略的商品化

平成28年11月1日

# 稚内商工会議所 地域戦略ビジョン特別委員会 「かぜ部会」 ～特異な気象環境を活かす～

平成28年11月1日

地域戦略ビジョンにおけるかぜ部会の目指す方向性は、「かぜ」をはじめとする再生可能エネルギーを、地域経済のインパクトとすることにある。

そのためには、不安定な電源を広域送電網によって関東圏など都市部の需要に供するだけでなく、地域の新たな産業と捉え、積極的な参入を図るとともに「水産業」「酪農業」「観光」をはじめ、地域産業の歴史的な変遷から、その課題を見直し、課題解決型の地産地消を目指すべきである。

また、ロシアサハリン州との地勢的な関係と現在進められている道北圏広域周遊ルートの観光素材のひとつとして、「かぜ」を活かしたエコツアーの開発を進め、「みなど」「まち」部会の提案と連携したインバウンド誘致も目指すべきと考える。

更には、余剰電力による水素利用や大型蓄電池開発、新たな協調制御などエネルギー技術の開発は日本の近未来の成長を標榜する取組みとなることから、国・北海道・他の地域・各種事業体の取組む新たな技術開発に積極的に関わり、稚内市と密接に連携した取組みによる地域経済の振興発展が重要である。

「かぜ」  
かぜと共に生きる街、稚内

戦略目標4項目

## 出力100万kw超の風力発電事業創出を可能とする送電網建設事業への参画(ひとづくり)

既存企業による施設整備やメンテナンス事業への参画はもとより、エネルギー事業などへの起業による事業興しや企業誘致を進め、新たな雇用創出による経済波及効果を提案。

- ①建設事業、メンテナンス事業への参画（人財育成のための研修施設を稚内へ）
- ②市民ファンド、企業ファンドの設立によるエネルギー事業への参画
- ③電力料金緩和による企業誘致

## 再生可能エネルギーの活用(しごとづくり)

### みなど・まち部会との連携(まちづくり)

市民が再生可能エネルギーの街“稚内”を実感できる取組みの推進と「みなど」「まち」部会と連携して各種産業の課題の解決を目指した地産地消型振興策を提案。

- ①防災機能を絡めたロードヒーティング設備への活用（稚内公園、中央地区回遊道路など）
- ②スマートコミュニティの提案（中央地区）、大型蓄電池・燃料電池を活用した地域分散型防災コミュニティの創造
- ③地域産業の振興に再生可能エネルギーの高度利用（水産資源の増殖用、酪農業でのバイオマス、植物工場など）

## 観光資源としての活用

風力施設マップの作成やガイド養成等のソフト強化と水素水の健康や医療分野での利活用を体験できるツアーの商品化を提案。

- ①エコツアーの企画実施（再生可能エネルギー施設を巡る、水素水の利活用など）

## 国・北海道・他の地域・各種事業体との連携により事業推進

国や道などのあらゆる機関で研究が進められている水素について、寒冷地としての実証研究施設誘致による蓄電池の技術確立とサハリン州との交易推進を提案。

- ①水素の実証試験施設の誘致（寒冷地における製造、活用、輸送など）
- ②大規模蓄電池・電力の協調制御技術の確立、サハリン州コルサコフ港と稚内港の連携

